

国立国語研究所学術情報リポジトリ  
国語研の窓 第32号 (2007年7月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001929">https://doi.org/10.15084/00001929</a>

# 国語研の窓

32号

平成19年7月1日 第32号 発行 独立行政法人国立国語研究所  
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集 国立国語研究所管理部総務課  
普及広報担当グループ  
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
電話 042-540-4300 FAX 042-540-4334  
URL <http://www.kokken.go.jp/>



1949年 福島県白河市で撮影

## もくじ

暮らしに生きることば	1
研究室から：大規模書き言葉コーパスの オンライン試験公開	2
刊行物紹介：『日本語教育ブックレット9 教室活動における「協働」を考える』	4
第31回「ことば」フォーラム報告	5
お知らせ：国語研究所ホームページの改訂	6
表紙のことば	6
文字さんぽ	7
新刊	7
お知らせ：国際シンポジウム、「ことば」フォーラム	8

## 暮らしに 生きる ことば

### 言葉遣いに困るとき

日頃の生活の中で、今この人にどのような言葉遣いで話したらいいのか、迷った、困った、という経験はないでしょうか？

大学生を対象とした面接調査でこんな質問をしたところ、一人の女子学生から次のような答えが返ってきました。

同じ年の友達と1年上の先輩と3人で話しているとき、敬語を使えばいいのか、普段友達と話すときの「タメ語」を使えばいいのか迷う。友達に「これこれだよね」という感じで話しても、同じ空間の中で先輩にも伝わっているわけだから、不快に思われるのではないかと思ったりする。でも、だからといって友達に「これこれですよね」と言うのもおかしいし…。

これは、日常ごくありがちな場面です。それでも、自分がその立場になったら、やはりどうしようかと迷う人は多いのではないでしょうか。それぞれの人

と別々に話すときには各々に合った話し方ができても、3人一緒に、「後輩」と「同年の友達」という自分の異なる二つの役割を同じ一つの言葉遣いの中で両立させられない、というわけです。

私たちは、様々な人に接することに、「です」「ます」を使うか、「わたくし」と言うか「あたし」と言うかなど、言葉の使い分けを調節しています。しかし、こうした話を聞くと、私たちが選んだり調節したりしているのは実は言葉そのものだけではないことに気づきます。今ここで話しているのはどんな「自分」か、どのように「相手」や「場の状況」に向いているかを、使う言葉によって表しているのです。ですから、言葉自体の使い分け方は分かっていても、それによって表す自分をどうしようかと決めかねて、困ることもあるのではないでしょうか。

ちなみに、上述の学生さんに、「先輩とお友達、二人に同時に質問を投げかけるときはどちらに合わせるんでしょうねえ？」と質問してみました。答えは、「『これどう思う？思います？』って言いますね(笑)」でした。

# 大規模書き言葉コーパスのオンライン試験公開

～KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」～

国立国語研究所は、明治から現代にいたる日本語の電子化資料をコンピュータ上で公開しようとするKOTONOHA計画を推進していますが、この度『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータの一部、約1000万語分をウェブ上で試験公開しました(<http://www.kotonoha.gr.jp/demo/>)。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』はKOTONOHA計画の一環として昨2006年度から構築を開始したものであり、2011年の完成時には1億語を超える量の現代日本語の書き言葉データが一般に公開される予定です。

\*コーパスとは、言語研究用に作られたデータベースで、体系的に収集され、研究用の情報を付加した言語資料のことです。

## 試験公開の目的

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をだれもが利用できるコーパスとするためには、全サンプルに著作権処理を行う必要があります。その総数はおよそ3万件に及ぶものと想定されます。しかし昨今では、著作権保護、個人情報保護意識の高まりを反映して、

著作権者との連絡にかかる費用が著しく増大する傾向にあり、著作権処理の成否がプロジェクト全体に大きく影響する状況となっています。

今回オンラインでの試験公開を開始する目的の一つは、著作権者の方々にこのデモサイトを試していただき、御提供いただくサンプルが実際にどのような形で利用されるかについて理解を深めていただることにあります。また、一般の不特定多数の方々に対してもKOTONOHA計画で開発中のコーパスに関する情報を提供することも、もう一つの大切な目的です。

## 今回公開するデータ

現時点で検索することのできるデータは、各省庁が刊行した白書のデータ約500万語分と、ヤフー株式会社提供の「Yahoo!知恵袋」のデータ約500万語分の合計約1000万語です。それについてもう少し詳しく説明します。

白書データの母集団は2001年から2005年の間に発行された白書と過去30年間に継続して発行され続けた白書の全体です。この母集団から無作為に約

前文版	接頭文字列	後文版	出典	著者	出版元	出版年
なりにかいた。でも体によくて		食べれる	Yahoo!知恵袋／教養と学問、サイエンス		Yahoo!	2004年10月
廊内に入る行列に並ばなくても		食べれる	Yahoo!知恵袋／地域、旅行、お出かけ		Yahoo!	2005年08月
シーナんで離乳食や野菜が子供でも		食べれる	Yahoo!知恵袋／Yahoo! JAPAN		Yahoo!	2004年10月
せて完了しましたよ”		食べれる	Yahoo!知恵袋／子育てと学校		Yahoo!	2005年10月
めこって生で		食べれる	Yahoo!知恵袋／暮らしと生活ガイド		Yahoo!	2005年07月
		食べれる	Yahoo!知恵袋／教養と学問、サイエンス		Yahoo!	2005年05月
00円のサーモンをかって、生で		食べれる	Yahoo!知恵袋／暮らしと生活ガイド		Yahoo!	2005年10月
られます。アイスやラーメンなら		食べれる	Yahoo!知恵袋／子育てと学校		Yahoo!	2005年04月
あと、リセットダイエット中に		食べれる	Yahoo!知恵袋／健康、美容とファッション		Yahoo!	2004年05月
なってる感じでした。これって		食べれる	Yahoo!知恵袋／暮らしと生活ガイド		Yahoo!	2004年09月
んがあります。ここなら心配がく		食べれる	Yahoo!知恵袋／暮らしと生活ガイド		Yahoo!	2004年10月
たのですが、最近ご飯も美味しい		食べれる	Yahoo!知恵袋／健康、美容とファッション		Yahoo!	2005年07月
シードオイルなども入り。やわら		食べれる	Yahoo!知恵袋／子育てと学校		Yahoo!	2005年05月
刀魚(さんま)のはらわたは、		食べれる	Yahoo!知恵袋／暮らしと生活ガイド		Yahoo!	2004年09月
たらへんでしょうか? (震れもし)		食べれる	Yahoo!知恵袋／健康、美容とファッション		Yahoo!	2005年01月

試験公開サイトでラ抜き言葉の「食べれる」を検索すると  
「Yahoo!知恵袋」から52件が見つかります。

500万語分を抽出しています。サンプルは白書の対象分野にしたがって9個のカテゴリー（「安全」「科学技術」「外交」「環境」「教育」「経済」「国土交通」「農林水産」「福祉」）に分類されており、カテゴリーを限定して検索することも可能です。同様に白書の刊行年を限定した検索も可能です。白書は政府の刊行物ですが、やはり著作権は存在しますので、「著作権フリー」を宣言しているごく一部の白書を除いて、それ以外のサンプルについては関係省庁から書面ないし口頭で利用許諾をいただいているです。

一方「Yahoo!知恵袋」は、参加者同士で知識を教えることを目的とした、Q&A形式のナレッジコミュニケーションサービスです。この種のデータについては、従来から言語研究上の重要性が指摘されてきていますが、今回、ヤフー株式会社の御厚意により、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータの一部として利用できることになりました。現在公開されているYahoo!知恵袋データの総量はそれだけで1億語を超える膨大なものです、今回はそこから500万語分の質問と回答を無作為に選択して公開対象としました。

白書とYahoo!知恵袋とはいろいろな面で対照的です。白書が硬い書き言葉の一つの典型であるのに対して、Yahoo!知恵袋はかなりくだけた話し言葉的な特徴を示します。表にいくつかの検索例を示しました。

## 5月28日に記者発表を行いました

このオンライン試験公開に関して、国立国語研究所は、5月28日、東京ミッドタウン内（東京・赤坂）のヤフー株式会社で記者発表を行いました。

当日は、9社10名のマスコミ関係者が取材に訪れ、当研究所研究開発部門言語資源グループの前川グループ長の説明に耳を傾けるとともに、説明終了後も熱心に質問が寄せられました。

発表の内容は、すぐにインターネット上のIT関連のニュースサイトや紙媒体の新聞などによって報道されました。報道された記事のブログなどでの引用も広がっているようで、試験公開サイトへのアクセス数も記者発表から2日で6000件を超えるなど、関心の高さがうかがえます。

コーパスを用いると、類義語の使い方の違いなど、語や句の特徴を、実際の用例を基に数量的に把握することができます。また、品詞情報や係り受けなどの文法情報を付加することで、言語研究や辞書作り、日本語教育や国語教育への応用、自然言語処理での利用などが期待されます。

コーパス作りは1960年代から欧米を中心に様々

白書にしか見つからない語、反対にYahoo!知恵袋にしか見つからない語があることがわかります。また、表記にゆれが見られる「ハナシアイ」では、「話し合い」と「話合い」に対する好みが、両者で異なっていることがわかります。なお「ハナシアイ」には名詞（「話し合いに参加する」）と動詞の連用形（「話し合いました」）とがありますが、全文検索ではこれらを区別できません。表では手作業で名詞だけを選別して結果を示しています。

検索した語句	白書	Yahoo!知恵袋
しちゃった	0	81
食べる	0	52
喫緊の	19	0
真摯な	5	0
話し合い	25	82
話合い	73	3

白書とYahoo!知恵袋の比較（件数）

## 今後の展開

試験公開のサイトには、著作権処理が完了したデータを順次追加していく予定です。今後追加を予定しているデータとしては、国会議録（最大で500万語程度）、新聞記事（最大で100万語程度）、文芸作品（500万語程度）などがあります。

（前川 喜久雄）

な言語圏で進んできました。しかし日本語では、各社の新聞記事や「青空文庫」などを利用することはできましたが、バランスのとれた均衡コーパスはないというのが現状でした。

著作権保護と学術利用・公共利用をどう両立させるかが課題ですが、今回の試験公開により、大規模コーパスを整備することの社会的意義をより多くの方に御理解いただければと願っています。

\* 報道発表資料及び当日の説明資料は国語研究所ホームページ上に掲載しています。

[http://www.kokken.go.jp/syokai/press/07\\_01/](http://www.kokken.go.jp/syokai/press/07_01/)



## 『日本語教育ブックレット9 教室活動における「協働」を考える』

本ブックレットは、平成17年3月20日・21日に国立国語研究所で行われた日本語教育短期研修「教室活動における『協働』を考える」の講演の内容に基づくものです。

ここで言う「協働collaboration」は、異なる背景を持つ複数の人が、共通の目標の実現のために、それぞれの能力を発揮し、互いに影響し合いながら（学び合いながら）協力することを指します。単に力を合わせるだけでなく、「相互に影響し合う」という点が重要です。

このような意味での「協働」は、今日、社会の様々な場面に登場します。特に、地域の町作りや福祉事業、企業の新製品開発などの現場では、「協働」は基本的なキーワードになっています。

町作りにおいては、自治体の担当者が地域住民の意見を集約し、調整をしながら計画を具体化するという方法がよくとられます。企業が新製品を作る際にも、消費者の意見を聞くためのモニターの募集がよく行われます。しかし、利用者の意見を聞いたからといって、結果が必ずしもよくなるわけではありません。立派だが維持が大変な施設や、使う分には便利だが廃棄がやっかいな商品は、結局使われなくなります。私たちが何かを作り出す際には、作り手と利用者だけでなく、そのものにかかわるすべての当事者がそれぞれの立場から知識と知恵を出し合い、互いに補い合うことが不可欠なのです。また、実際の活動を通じて、そのような協働的な活動が一人ひとりの力の総和以上のものを生み出す原動力になることもわかつきました。

日本語教育の世界でも、「学習者の多様性」「学習者主体」に対する認識の深まりとともに、「協働」が重要なキーワードとなっています。ピア活動（peerは「仲間・同僚」の意）と呼ばれる学習者間の協働を重視した教育実践を試みる人も増えています。本ブックレットでも、協働学習（collaborative learning）の方法の一つである「ピア・レスポンス」（学習者どうしで作文を読み合い、意見交換や情報提供を行なながら、文章を完成させていく活動）、ならびに「ピア・リーディング」（学習者どうしが互いに助け合なながらテキストの読解を行う活動）について、その要点がわかりやすく解説されています。

教室活動も、教師と学習者だけからなる授業の形式から脱皮し、日本語教師以外の人が様々な形で学

習の支援に参加するようになっています。大学などでは、日本語教師と大学の専門科目的教師との協働による授業がすでに行われていますし、地域日本語教育においても、日本語教師と行政関係者との協働による様々な取り組みがなされています。

「協働」の考え方は、社会においてますます重要性を増すことでしょう。本ブックレットが、「協働」へのよい入口となることを願っています。

### 『日本語教育ブックレット9

教室活動における「協働」を考える  
(2007年3月／B5判横組み50ページ／実費500円)

- ・はじめに 金田智子
- ・学習者はどう学んでいるか 文野峯子
- ・協働学習としてのピア・レスポンス 池田玲子
- ・協働学習としてのピア・リーディング 館岡洋子

本ブックレットの購入方法や既刊本の内容については、以下のホームページを御覧ください。

[http://www.kokken.go.jp/kanko/nihongo\\_kyouiku\\_booklet/](http://www.kokken.go.jp/kanko/nihongo_kyouiku_booklet/)

お問い合わせは、FAX(042-540-4333)、もしくは電子メール（booklet@kokken.go.jp）でお願いします。「『日本語教育ブックレット』事務局宛」と明記してください。

(金田 智子・井上 優)



## 第31回 「日本語の中の外来語と外国語 — 新聞、テレビ、J-pop」

### ■76名が参加

第31回「ことば」フォーラムが3月24日（土）午後、同志社大学との共催でキャンパスプラザ京都で開催されました。参加者は76名でした。

### ■マスメディアで使用される外来語と外国語の過去・現在・未来を考える

前半は次の3件の講演がありました。

- ① 同志社大学の橋本和佳氏は「新聞の外来語・外国語」を調査し、新聞社説で使用された外来語の90年間の変化を中心に解説されました。その中で、外来語が大正から現代にかけて、グラフ上ではS字カーブを描くように急激な増加からゆるやかな停滞へと変化していることから、将来は大きくは増加しないのではないかと予測しました。



- ② 大阪大学の石井正彦氏は「テレビの単語使用—外来語を中心にして—」という題で、国立国語研究所が1989年4～6月のテレビ放送を対象として行った語彙調査（「テレビ放送の語彙調査」）に基づいて解説しました。番組ジャンル別ではスポーツ系、音楽系、バラエティー系で外来語の使用が多いが、使われている外来語の3分の2は中学生向けの国語辞典に載っているもので、残りの3分の1は使用頻度の少ないものであることがわかりました。

- ③ 国立国語研究所の伊藤雅光は「J-popの外来語・外国語」について、中島みゆきと松任谷由実が、この約30年間で発表してきた全歌詞それぞれ300曲、3万語以上を調査し、どちらも1985年ごろから外国語の使用が増加するが、2000年以降はともに減少するという同じ増減パターンを示していることを報告しました。

フォーラムの後半に行われた参加者との質疑応答では、「外来語の使用量がそれほど多くないのに、なぜ外来語が氾濫していると言われのでしょうか」という質問に対しては、「外来語はカタカナが使われるため、漢字仮名交りの文章のなかでは目立つだけではなく、その文章のキーワードとなっていることが多いので、印象に残りやすいからでしょう」という応答がありました。また、「テレビの調査は20年ほども前のものですが、今テレビを調査すると結果はどうなると思いますか」という質問に対しては、「今はテロップが多用されるようになりましたので、多少難しい単語が使われても理解しやすくなっています。その点を考えてもかなり異なった調査結果になるのではないかと推測しています」という応答があるなど、外来語と外国語に対する関心の高さがうかがわれました。

ディスカッションでは a) 外来語が新鮮さを失うと、外国語の使用が増加するため、将来は外来語よりも外国語の方が大きな課題となりうるのではないかという予測や、 b) 最近の若いシンガーソングライターの歌詞では、むしろ外国語を避けて、和語と漢語を主体にしたものが多くなっており、J-popでは外国語使用がピークを過ぎて、若者の日本回帰現象が起こっているのではないかという意見などが交わされ、テーマをさらに深めていくことができました。

（伊藤 雅光）



## ■お知らせ■ 国立国語研究所ホームページを一新しました。

以下の点について国語研究所ホームページ (<http://www.kokken.go.jp/>) の改訂を行い、2007年5月、新規公開しました。

- ・利用しやすさ、使い勝手のよさの向上
- ・Web標準規格への対応：Webアクセシビリティ（利用しやすさ）に留意
- ・探しやすい情報の提示：内容の再構成とメニュー表示の変更
- ・提供する内容の拡充



各ページには、大力  
ゴリーのメニューを共  
通に表示しています。

国語研究所Webサイト  
の情報の更新をお知  
らせします。

大力ゴリーとその下  
の階層にある内容の一  
覧を掲載しました。ト  
ップページから目當て  
の内容のページへ直接  
移動することができます。

ページ内に表示され  
ている文字の大きさを  
変更するこ  
とができます。

国語研究所の各刊行物の概  
要紹介のほか、「ことばビ  
デオ」シリーズの映像の  
一部（各巻約2分）や「新  
「ことば」シリーズ」の解  
説や問答の一部、広報紙  
「国語研の窓」などをWeb  
上で読むことができます。

XMLを利用して更新情報  
を提供します。RSS/Atom  
対応ブラウザ、RSS/Atom  
リーダーで国語研究所Web  
サイトを設定し、更新情報  
を確認することができます。

## 表紙のことば

表紙の写真は、白河調査のアルバムからの1枚です。白河調査は、1949年に福島県白河市で行った言語生活調査で、調査員が住民一人ひとりから言葉の使い方について聞き取りをして、普段使っている言葉がどのように共通語の影響を受けているか調べようとした。

写真には、縦書きの「左側通行」の看板や、英語表記の道路標識などいろいろな看板が写っています。当時は「左側通行」でしたが、1949年（昭和24年）11月の「道路交通取締法」により、「人は右、車は左」という現在のルールになったそうです。「左側通行」の看板をよくみると、"ひだりがは"、"ませう"という旧仮名遣いになっています。アルバムには、調査風景や町並み・馬市の様子など82枚が収められています。台紙や写真の劣化がすすみ、2003年に利用・保存のためにデジタル化と修復をしました。



左側通行の看板（表紙写真拡大）



## 方言文字「潟」のゆくえ

地名を書き表す文字の中には、ある特定の地域や場所にだけ使われている文字があります。このような文字を「方言文字」とか「地域文字」などと呼びます。

筆者が生まれ育った新潟にも方言文字があります。「潟」の代わりに使われる「潟」という略字です。かつて「潟」は、『日本語の現場』(読売新聞社会部編、1976年刊)で、道路案内標識でも広く使われている、新潟の方言文字として紹介されました。今から20年くらい前、筆者が小学生のころに、道路標識の青い看板で「新潟」と書かれているのを見た記憶があります。でも、いつのころからか、道路標識から「新潟」は消えてしまい、今では「新潟」と書かれているものしか見あたらなくなりました。

江戸時代の板本(印刷本)を読んでいると、「潟」の字に出くわすことがあります。例えば、松尾芭蕉の『おくのほそ道』(元禄15年刊)や、上田秋成の『雨月物語』(安永5年刊)では、「象潟」(秋田県)の「潟」が「潟」で書かれています。江戸時代には、「潟」は新潟限定の方言文字ではなく、出版物でも使われるくらいの使用域の広がりを持つ文字だったことがわかります。

明治以降、出版物の主流は活版印刷に移ります。『明朝体活字字形一覧』に収録された23種の活字総数見本帳(販売用の活字一覧表)には、「潟」はあります

が、「潟」はありません。漢和辞典に載っていて「正字」とされる「潟」に「共通字化」され、略字の「潟」は印刷の世界から消えてしまいました。一方で、地名を書くために日常的に使う新潟では、「潟」は方言文字として昭和に入っても残り続けました。

では、平成の現在、方言文字「潟」はどうなっているのでしょうか。道路標識では消えましたが、街中でもまれに見ることができます。上はスクールゾーンの標示です。下は自動販売機の住所標示で、手書きです。



筆者撮影 (2006年10月)

最後に、看板や標識とは違い、不特定多数の目にさらされない手書きの世界をのぞいてみましょう。筆者の父宛の年賀状の住所表記には、「潟」が使われているものがあります。差出人は、40代から70代にかけて、新潟県出身者に限られます。ちなみに、30代の新潟県在住者からの筆者宛の年賀状では、すべて「潟」が使われています。「潟」の使用には世代差があり、手書きの世界でも「共通字化」が進んでいるようです。

(高田 智和)

## 新刊

### 1. 『日本語教育ブックレット9 教室活動における「協働」を考える』

2007年3月/B5判横組み50ページ/実費500円(4ページに紹介記事があります)

### 2. 『日本語ブックレット2005』

2007年3月WEB公開 [http://www.kokken.go.jp/nihongo\\_bt](http://www.kokken.go.jp/nihongo_bt)

2005年の日本語をめぐる状況・傾向を、図書・総合雑誌・新聞記事といった資料をもとにまとめた「動向」と、日本語に関する図書・記事の「文献目録」を掲載しています。

WEBブラウザで閲覧することができます。また、PDF版をダウンロードして閲覧することもできます。



## 第14回国際シンポジウム「世界の言語地理学」

日本の言語地理学は、全国を対象とした国立国語研究所の『日本言語地図』『方言文法全国地図』のほか、全国各地で400冊以上にのぼる言語地図集を作成し、質量ともに多くの成果をあげてきました。今回のシンポジウムでは、世界各地の調査ならびに研究の状況を把握しながら、このような成果が、世界的に見た場合、どのように位置づけられるのか、これから何が求められるのかを考えます。

■日 時：2007年8月22日(水)、8月23日(木) 両日とも午前10時～午後5時

■場 所：全社協 瀬尾ホール(東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル)

### ■講演予定者

- 李相揆（韓国 国立国語院）  
Joachim Herrgen（ドイツ マルブルグ大学）  
Heinrich Ramisch（ドイツ バンベルク大学）  
Maria-Pilar Perea（スペイン バルセロナ大学）  
Hans Goebel（オーストリア ザルツブルグ大学）  
David Heap（カナダ 西オタリオ大学）  
岩田礼（金沢大学）  
真田信治（大阪大学大学院）  
福嶋秩子（県立新潟女子短期大学）  
大西拓一郎（国立国語研究所）  
・日英・日韓の同時通訳があります。  
・参加は無料ですが、申し込みが必要です。下記サイトよりお申し込みください。定員(250名)になり次第、受付を終了します。申し込みサイト：<http://www.ilcc.com/geolinguistics/>



## 第33回「ことば」フォーラム「映像作品から話すことばを考える—国語・日本語教育の現場で—」

国立国語研究所では、研究活動で得られた成果を学校教育・日本語教育・生涯学習などで広く活用していただくために、「ことばビデオ」という映像作品を制作してきました。今回は「ことばビデオ」の教育現場での活用事例を紹介しながら、その活用の広がりや可能性について考えると共に、広く映像とことばの関係を考えます。

■日 時：2007年11月2日（金）

午後1時30分（1時開場）～4時30分

■場 所：アクロス福岡 西ウイング7階  
大会議室（定員200名）  
福岡市中央区天神1-1-1

### ■講 師

- 「国語教育の現場での活用を考える」  
中神智文（福岡県立朝倉高等学校）  
「日本語教育の現場での活用を考える」  
清 ルミ（常葉学園大学）  
「映像作品の活用と可能性について考える」  
杉戸清樹（国立国語研究所長）



- ・入場無料・事前申し込み制。定員になり次第、締め切ります。
- ・手話通訳を御希望の方は、開催日の1週間前までに御連絡ください。

### 【申し込み方法】

ホームページ (<http://www.kokken.go.jp/>) からお申し込みください。

「ことば」フォーラム係 TEL：042-540-4300（代）FAX：042-540-4456 でもお受けしています。

- JR博多駅から天神まで地下鉄空港線で5分
- 地下鉄空港線天神駅東口から徒歩3分
- 地下鉄七隈線天神南駅5番出口から徒歩3分
- 西鉄福岡天神駅から徒歩10分

